

総合的な放課後対策推進 のための調査研究

事業報告書

市区町村レベルにおけるボランティア・ネットワーク育成モデル

も・く・じ

第1章	「市区町村レベルにおけるボランティア・ネットワーク育成モデルとは」	3
	(1) 事業のねらい	3
	(2) 事業の全体像	4
第2章	本事業の内容	6
	(1) 本事業の特徴	6
	(2) 現場デビューとセットになったボランティア講座	7
	(3) ネットワーク発足に向けた仕組み	8
第3章	ボランティア講習会・現場体験・勉強会受講者アンケート結果及び考察	9
	(1) ボランティア講習会受講者アンケート結果	9
	(2) ボランティア勉強会受講者アンケート結果	15
	(3) モデル地区アンケート結果から ～事業運営委員会による事業評価を踏まえ～	21

参 考

- 事業運営委員
- モデル地区一覧

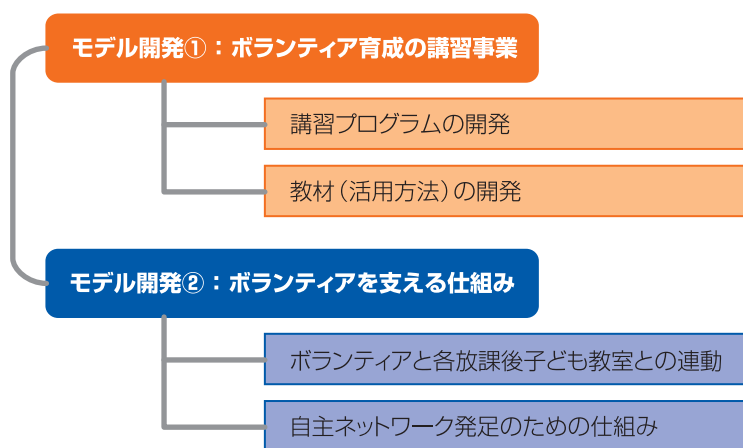
第1章 「市区町村レベルにおけるボランティア・ネットワーク育成モデル」事業とは

【1】事業のねらい

「市区町村レベルにおけるボランティア・ネットワーク育成モデル」事業は、2つのモデル開発を目指して行いました。

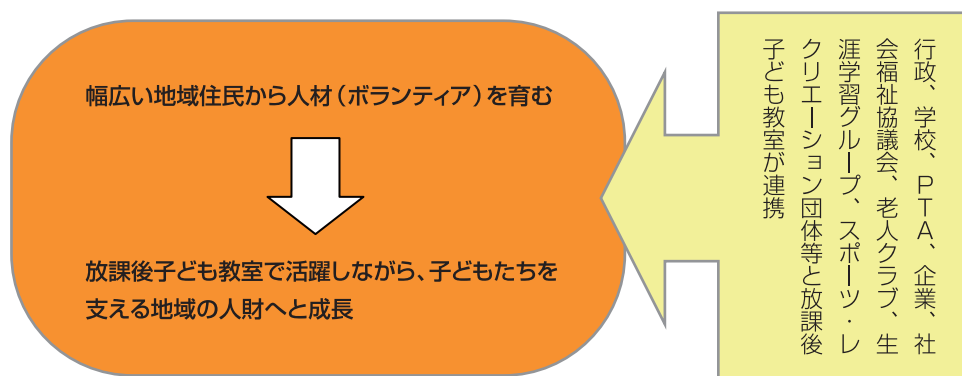
一つ目は、放課後子ども教室の運営を支えるボランティアを育成するための講習事業のモデルです。具体的には、<1> 実践的で、喜びを得やすいスキルや知識を身につけやすい講習プログラムの開発と、<2> 講習の機会だけでなく、実践の間にも参考にできる教材やそれらの活用方法の開発です。

二つ目は、ボランティアの活動、成長を支える仕組みのモデルです。具体的には、<1> 育成したボランティアと市区町村内での各放課後子ども教室とをつなぎあわせる仕組みづくりと、<2> ボランティアが集まり、情報・事例の交換やスキルアップを図る自主ネットワーク発足に向けた仕組みづくりです。



施策が子どもの居場所プランから放課後子どもプランへと発展する間に、地域での放課後子ども教室の展開もますます充実しています。しかし、後述するように、人の手、地域の支えが必ずしも十分ではなく、持てる可能性を最大に発揮できていない放課後子ども教室も少なくないようです。

本事業では、このような放課後子ども教室を応援するひとつの方法として下図のような地域ぐるみの仕組みの実現に役立てていただこうと、2つのモデルを開発しました。なお、2つのモデル開発の成果は、本書とセットとなっている『子どもたちを応援する遊びボランティアのススメ（講習会テキスト）』と『放課後子ども教室の運営を支えるボランティア養成事業運営マニュアル』に紹介していますので、ご参照ください。



【2】本事業の全体像

本事業では、前述のねらいで記したモデルの開発のために、全国16実施地区において、共通のマニュアルに基づいた、実施体制の確立とボランティア養成の実施、及び養成したボランティアの自主ネットワークの発足を内容とした事業（モデル事業）を実施しました（下図参照）。

事業実施体制確立期

レクリエーション団体や放課後子ども教室、行政、関連団体等地区の実情に応じた関連団体、組織と連携して事業を進めるための体制（事業実施委員会）を構築する。

この実施体制の運営メンバーの間の目標やノウハウ等の共有（事業説明会）を行い、以降の事業実施計画を固め、運営の体制を確立する。

ボランティア養成期

当該市区町村内で受講者を募集し、放課後子ども教室で活動するボランティア養成講習事業を実施する（上記運営体制にて）。

ボランティア養成講習事業については、次の2つのコースから、実施地区が選択し、実情に応じて実施する。

- ①見守りボランティアコース：子どもに寄り添い、会話程度を楽しみながら見守るタイプの関わり
- ②趣味活用ボランティアコース：自身の得意な活動や趣味等を子ども達に合わせて紹介する関わり

ネットワーク構築期

事業実施委員会等のつながりを活用し、ボランティア養成講座修了者を当該市区町村内の放課後子ども教室でデビュー（養成講座の学習成果を活かしたボランティア活動の実施）させる。

デビューを経験したボランティアを集め、スキルアップ等の勉強会を開催する。その後、日常的に放課後子ども教室で活動しながら折々の勉強会で集るボランティアの自主ネットワークを構築する。

また、上記した実施地区でのモデル事業に先立ち、事業実施体制構築から自主ネットワークの立ち上げに至る事業全体の基本的な手順や講習事業等の運営ノウハウを開発するとともに、2つのコースのボランティア養成講座のプログラムや教材、教授法等を開発し、事業実施に必要なマニュアルにまとめました。そして、実施地区向けの伝達会において、これらのマニュアルを用いて、必要なノウハウを伝達しました。

さらに、こうしたマニュアルの作成や実施地区での事業展開については、有識者で構成される事業運営委員会を設置し、そこからの助言、指導に基づいて取り組みました。また、この事業運営委員会からの助言、指導を仰ぎながら、実施地区での取り組みの成果を分析、整理し、本書を含む成果報告書をまとめました。

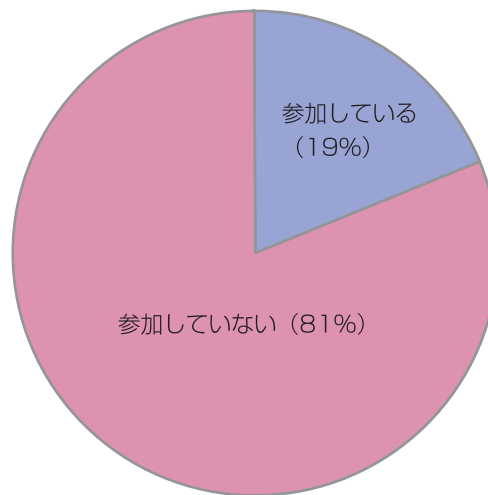
ボランティアの育成とネットワーク形成のモデル開発の背景

文部科学省と厚生労働省が取り組んだ放課後子どもプランの推進に向けた調査（平成19年度調査）では、多くの市町村担当者から新たな指導者の養成・確保（74%）、ボランティアの養成・確保（68%）、地域リーダーの育成（53%）等人材確保に関連する課題があげられています。また、放課後子ども教室を実施していない市町村の理由の第1位として、指導員等の人材確保が難しいことがあげられるなど、人材の確保が、放課後子ども教室の展開（発展）の重要なかぎとなっているようです。

一方で、ボランティア活動などへの参加していない人が圧倒的な割合を占める（図1）ものの、今後は参加したいとする人の割合が50%を超えるという調査結果もあります（図2）。このように、放課後子ども教室の現場にかかわり得る、いわば潜在的な人材は、決して少なくないといえます。こうした地域の潜在力を引き出すためには、多様なボランティアの養成と活動支援の事業が展開されることが大切なようです。

図1

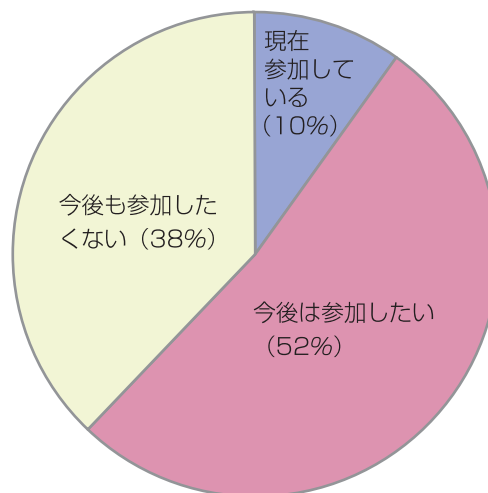
NPOなどのボランティア・市民活動への参加頻度



※内閣府「国民生活選好度調査」(2007)より作成

図2

NPOやボランティアへの参加状況

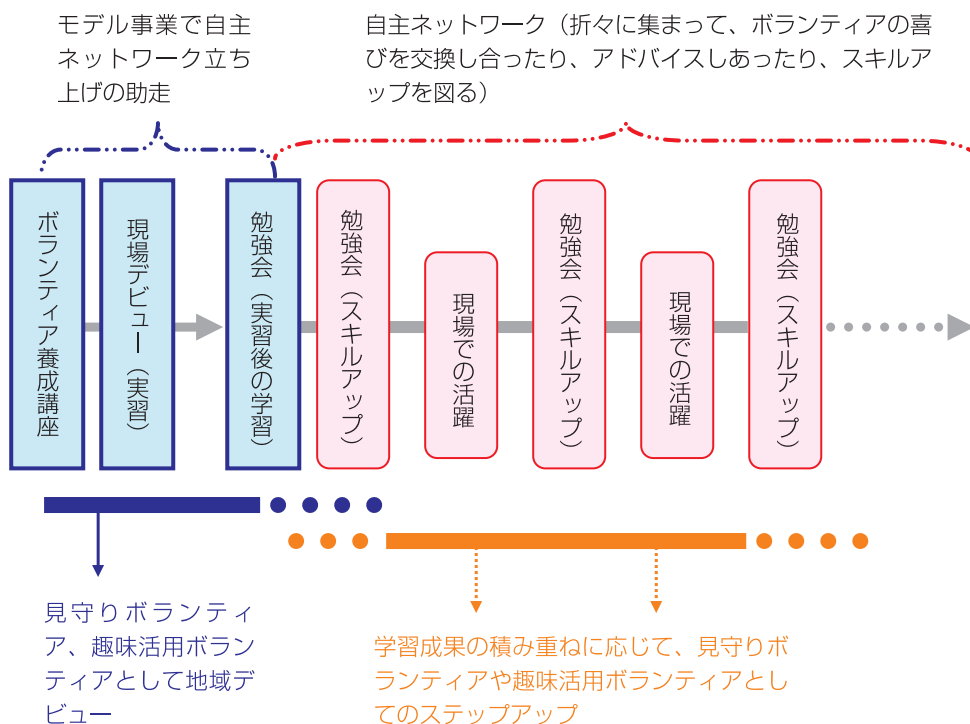


※内閣府「国民生活選好度調査」(2003)より作成

第2章 本事業の内容

【1】本事業の特徴

ボランティアの養成と養成したボランティアの自主ネットワークづくりの方法（下図参照）に、本事業で開発するモデルの特徴を見出すことができます。



ボランティア養成の講習は、現場へのデビュー時に必要とされる最低限の知識とスキルの体験学習が中心の構成です。できるだけ早く、しかも安心して現場に臨み、実際に子どもと接します。そこで、子どもたちから笑顔のお返しをもらうことで、ボランティアとしての活動の意欲だけでなく、学習し続け、成長し続けたいという意欲も高まります。さらには、どのようなことを学習しなければならないか、自分に足りないところは何か、といった学習課題、成長するための課題が自覚されます。

このような現場デビューにより、成長への強い意欲と姿勢をもったボランティアに向けて、必要な知識や技術をひとつ、ふたつと付け加えて学ぶ勉強会を設けます。勉強会で、力量を高めたボランティアが、再び放課後子ども教室で、子どもたちとふれあい、笑顔（喜び）を貰います。さらに、成長への意欲が高まったところで、勉強会で新しい知識、技術を付け加え、放課後子ども教室へ・・・と、学んだことをすぐに現場で活かし、喜びを得て、ボランティアとして自らを高める意欲と姿勢を強めていきます。

こうした意欲と姿勢をボランティアが共有することで、折々に勉強会でお互いに高めあい、普段は各自の現場で活動を楽しむというネットワークに自ら参画するという主体者意識も高まります。このような意識を持ったボランティアが集ることで、ボランティア自身による、文字通りの自主ネットワークが立ち上がります。本事業の特徴は、このような具体的で、実践的な自主的ネットワークの発足に至る、学習と現場での成果の発揮を連動させる仕組み、ということができます。

[2] 現場デビューとセットになったボランティア講座

自主的なネットワークの発足に参画しようという思いを持つボランティアを育成する第1歩が、半日～1日で行うボランティア養成講座です。このボランティア養成講座では、現場デビューの1回のために必要な、実践的で、最小限の知識と技術が学習されます。

現場デビューのために必要な知識と技術の具体的な内容は『子どもたちを応援する遊びボランティアのススメ（講習会テキスト）』に譲りますが、目指すは、講座終了時に「受講者が『これなら自分にもできる』、『子どもたちの居る現場で試してみたい』という気持ちを持つ」ことです（下図参照）。

講習事業で目指す受講者の到達点

- ①子どもたちの笑顔や前向きな姿勢を引き出すコツを理解し、具体的な働きかけができる。
- ②コツを使った具体的な働きかけとして、現場で展開できるあそびを1つ身につける。

もう少し具体的にいうと、2つのコース（見守りボランティア、趣味活用ボランティア）それぞれに、下図のような挑戦の課題を自らもって現場に臨む受講者の姿を目標にします。

見守りボランティアコース	<ul style="list-style-type: none">*子どもたちを理解する視点、安全確保の視点等ボランティアの基礎知識*1人や2、3人の子どもたちとの遊びを通じて積極的に交流するための技術<ul style="list-style-type: none">*簡単な遊びを使って、子どもたちや子どもとボランティアが呼吸や動作をそろえて、一体感や安心感をかもし出すコツ*一つの遊びの中で「出来たねー」「すごいね」と子どもたちを褒める機会をたくさんもてるようにするコツ。*技術（コツ）を使って実践できる遊びのメニュー
趣味活用ボランティアコース	<ul style="list-style-type: none">*子どもたちを理解する視点、安全確保の視点等ボランティアの基礎知識*趣味や特技を活かして子どもたちに新しい体験を提供するための技術<ul style="list-style-type: none">*レベルが少しずつ高くなり、挑戦のしがいや成功したときの達成感が大きくなるように趣味を活かした体験メニューを組み立てる方法*一人ひとりの子どものよいところ、前向きな姿勢、よい結果を積極的に評価（ほめて）その様子を全体に紹介しながら、主体性と自主性をバランスよく引き出す方法

現場デビューとセットになっているために、紹介したボランティア講座の目標が、実践的な半面、限定的に（それだけに普通に暮らす人々にとって学びやすい）になっていることに注意を払いたいと思います。現場デビューは、半日～1日という比較的短時間の講座で学んだことを、すぐに放課後子ども教室で試す、机上、講習会場での長い時間をかけた演習に勝る実習の時間となります。

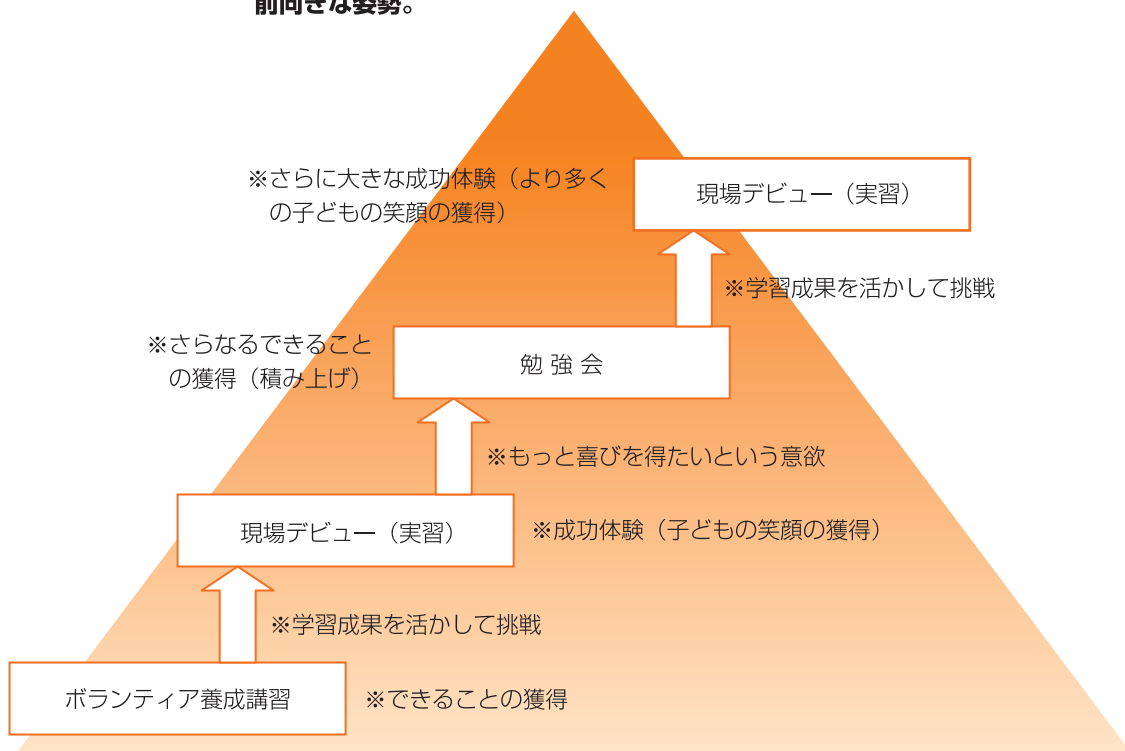
[3] ネットワーク発足に向けた仕組み

今回実施地区で取り組んだモデル事業には、養成講習と放課後子ども教室での現場デビュー（という名の体験実習）に加えて、現場デビューを果たしたボランティアが再度集る勉強会がセットになっています。現場デビューで子どもたちと触れ合い、その喜びを知ることで、何のための、何を学べば、さらに大きなボランティア活動の喜びを得られるか＝学習の目標、課題を実感として理解することができます。こうして明確な目的意識を持つことで、数時間程度の勉強会でも、新しい知識や技術を砂にまいた水のように吸収することができるようになります。また、勉強会は、講習会では十分理解しきれなかった知識や消化し自分のものとしきれなかった技術の復習の機会にもなります。こうした勉強会を経ることで、ボランティアとしてできることも広がります。勉強の成果を活かして子どもたちによりよいふれあいや体験を届けたいという意欲も高まります。こうして一歩成長したボランティアとして、放課後子ども教室で活動を継続しながら、折々に勉強会に集るネットワークの一員となります。

本事業では、ここまでの流れをネットワーク発足に向けた仕組みと捉え、実施地区での取り組みを重ねました。この後は、互いに学びあい支えあう勉強会を行うことを柱とした、放課後子ども教室で活動するボランティアのネットワークとして、地域的な特性も踏まえながら、手作りで発展していくことでしょう。

こうしたネットワーク発足に向けた仕組みは、人々の意欲を高め、前向きな姿勢を強化するエンパワメントの方法としても有効です。養成講座で、ボランティアとして活躍してみたい、遊びを展開できるかもしれないという自分への期待や自信（自己効力感）が芽生えます。そして、すぐさま学習成果を活かして現場デビューすることで達成体験、成功体験を味わい、芽生えた自己効力感が確かなものに成長をはじめます。その後、勉強会で積み上げた知識や技術が現場で活かされ、子どもたちの笑顔や前向きな姿に触れる度に、ボランティアとしての自己効力感が高まり、主体的にネットワークへ参画して、自らばかりか、ボランティア仲間全体の成長に熱心に取り組むようになっていく（エンパワメントされる）ことが期待されます。

子どもたちとのよりよいふれあいの実現、子どもたちへのより豊かな体験の提供に向けた、強い意欲、前向きな姿勢。ボランティア仲間と支えあいながら成長を続ける強い意欲、前向きな姿勢。



第3章 ボランティア講習会・現場体験・勉強会 受講者アンケート結果及び考察

本事業を評価・検証する方法として、各モデル地区が実施する一連の事業に参加した受講者に対し、2種のアンケート調査を実施しました。ここでは2種のアンケートの結果（抜粋）と、そこから見える成果と課題について、有識者による事業運営委員会の示唆も含めて整理しました。

【1】ボランティア講習会受講者アンケート

(1) アンケート実施概要

各モデル地区のボランティア養成講習会終了時に、アンケートを受講者に配布し、その場で回収。

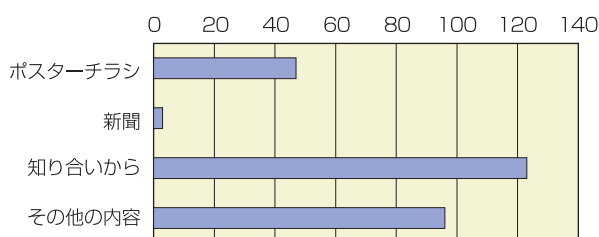
■有効回答数：335（13モデル地区）

(2) 集計結果

Q1. 本講習会に参加されたきっかけについてお聞きます。

①本講習会を何でお知りになりましたか。

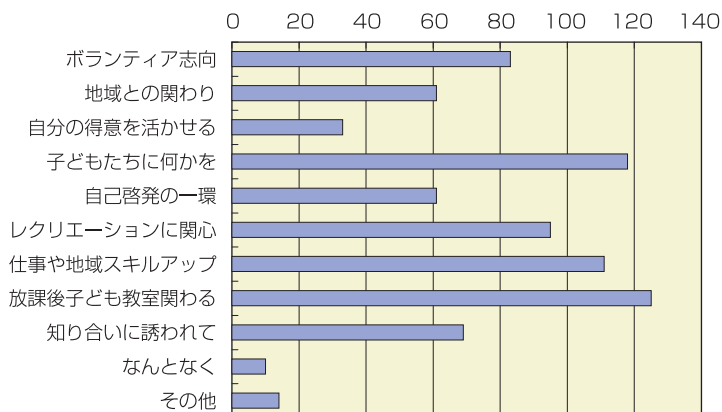
- (47) ポスター・チラシ等の媒体
- (3) 新聞等のメディア
- (123) 知り合いからの口コミ
- (96) その他：



②参加の動機について、あてはまるもの全てに○印をご記入下さい。また、最も該当するもの1つに◎をご記入下さい。

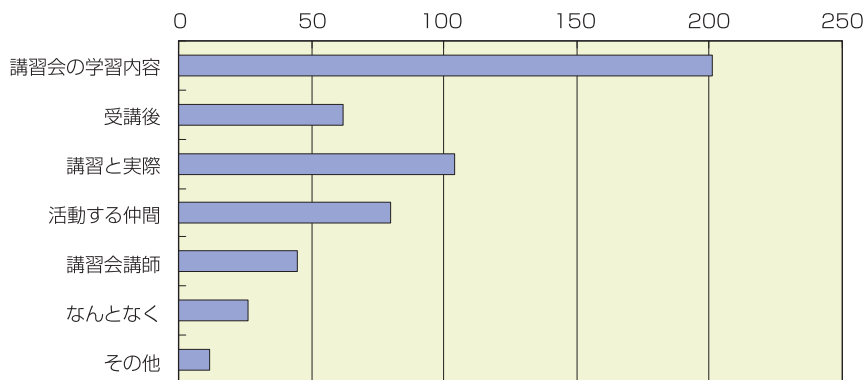
※赤字が最も該当する回答数

- (83 / 16) ボランティア志向を持っていたから
- (61 / 11) 地域との関わりを持ちたいと考えていたから
- (33 / 3) 自分の得意を活かせると思ったから
- (118 / 31) 子どもたちに何かを提供したいと思ったから
- (61 / 11) 自己啓発の一環
- (95 / 18) レクリエーションに興味関心を持っていたから
- (111 / 32) 仕事や地域活動を行う上でのスキルアップを図りたいと思ったから
- (125 / 59) 放課後子ども教室に関わっているため
- (69 / 24) 知り合いに誘われたから
- (10 / 5) なんとなく
- (14 / 1) その他



③本講習会の何に（どこに）魅力を感じられた、または期待してご参加されましたか。あてはまるもの全てに○印をご記入下さい。また、最も該当するもの1つに◎印をご記入下さい。 ※赤字が最も該当する回答数

(201 / 107) 講習会の学習内容 (62 / 37) 受講後の活動現場である放課後子ども教室
 (104 / 47) 講習と実際の活動がセットになっている点 (80 / 25) 活動する仲間づくり
 (45 / 10) 講習会講師 (26 / 13) なんとなく (12) その他：



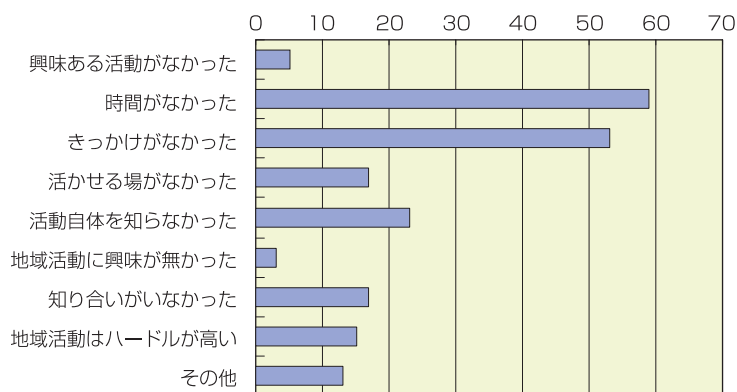
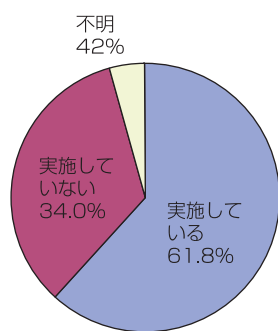
Q2. あなたの日頃の地域活動（ボランティア活動等）についてお聞きます。

①日頃から、何か地域活動を実施されていますか？

(207) 実施している
 (114) 実施していない …… 以下、②についてご回答下さい。

②活動されていない方にお聞きます。活動されていない理由として、あてはまるもの全てに○印をご記入下さい。

(5) 興味がある活動がなかった (59) 時間がなかった
 (53) きっかけがなかった (17) 活かせる場がなかった
 (23) 活動自体を知らなかった (3) 地域活動に興味なかった
 (17) 知り合い（仲間）がいなかった (15) 地域活動等はハードルが高いと思った
 (13) その他

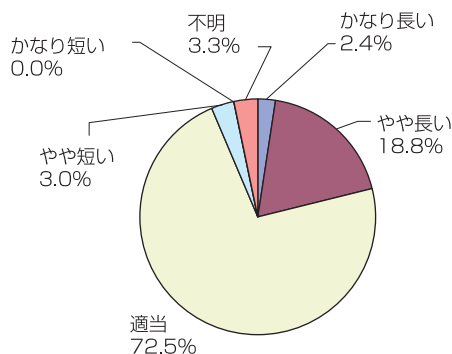


Q3. 本講習会について、率直な感想をお聞かせ下さい。

①講習時間はいかがでしたか？

あてはまるものに○印をご記入下さい。

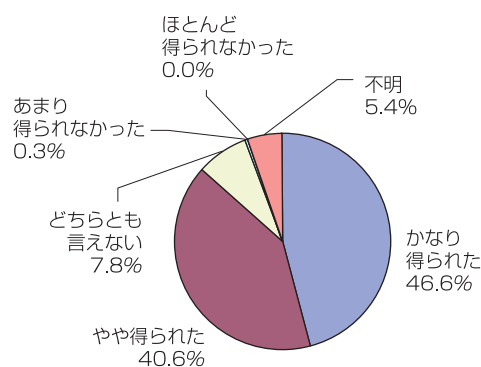
(8) かなり長い (63) やや長い (243) 適当
(10) やや短い (0) かなり短い



②受講前に期待していたものを得ることができましたか？

また、その内容をお聞かせ下さい。

(154) かなり得られた (136) やや得られた
(26) どちらとも言えない (1) あまり得られなかった
(0) ほとんど得られなかった



－ 1：上記で得られたものを簡潔にご記入下さい（以下、抜粋）。

*ゲーム、遊び等の展開ノウハウ等

- ・アイスブレイキングなどの実践とレクのコツなどの話
- ・ゲームの進め方など体験しながら理解できた
- ・ゲームを始める前に静かにする方法
- ・ゲーム等を通しての子どもとの接し方
- ・すぐに実施できるアクティビティ
- ・どうやって子どもたちにうまく説明するかということ。
- ・フロア理論、能力にあった遊びを提供する大切さがわかった
- ・メニューの組み立て方の基本を学んだ
- ・活用できそうなものが多く学べた
- ・簡単なゲームの内容。それを具体的に心理学的に理論的に説明して下さったのでより理解度が深まった
- ・簡単な遊びを通して知らない人との交流がはかれた
- ・起承転結の意味と流れ
- ・子どもたちとの一体感を得るための手だて（集中させる導入手段）
- ・児童との同調・共鳴の具体的方法

*コミュニケーションの図り方、仲間づくり

- ・コミュニケーションの取り方
- ・一瞬間に相手の気持ちをとらえ、和ませていく手段という物を得ることができました
- ・道具がなくても仲間づくりをつくることのできる
- ・子どもとの距離の取り方・縮め方、ゲームの種類
- ・距離（公的・社会等）に納得。ゲームやフリスビーを楽しめ、使えそうです
- ・子どもとの挨拶代わりになるゲームでコミュニケーションはとれるということを学べた

*子どもたちについて

- ・ちょっとしたことが子どものプラス思考になっているということ

- ・子どもから多くの物を学べた
- ・子どものサインの見方
- ・子どもの気持ち（心理）
- ・子どもの発達過程の体と心
- ・単に講義でなく、子どもたちの状況（運動能力、問題等）を聞きながらできた点

*自分自身（ボランティアとして）

- ・ボランティアとしての参加に自信となる
- ・ボランティアの考え方（とらえ方）・原理、活動
- ・見守り、よりよい、ボランティア…身近なことから始めればよい
- ・行動方針を共有することができた
- ・自分が楽しめた
- ・大人も子どもと楽しみ、遊ぶことができるのだということ
- ・知り合いが多くなった
- ・大人にも共通する仲間づくりのヒントを得られたから
- ・全く知らない人とレクを通してよりよい人間関係がつけられたこと
- ・内容も勉強になった。役立つ内容だった

*その他

- ・実際の体験活動が組み込まれていたのですぐに役立つと思われる
- ・放課後子ども教室についての講習がわかりやすかった
- ・深く専門的で、わかりやすく受講しました
- ・あそびの城ボランティア養成の必要性、自己向上の努力
- ・こういう活動があることを知らなかったのでよかった
- ・行事には思いがけない事故等を必ず想定しておかなければいけない。意識をもっとしっかり持つ
- ・考えたり思ったりしたことを実行することを書面にしたり説明をする難しさ等、段階を通して少し理解できたとうれしく思います

－ 2：上記で期待したが得られなかったものを簡潔にご記入下さい（以下、抜粋）。

***より深く、より多く**

- ・もう少し、ひとつひとつに時間がかけられたら良かったかなと思います
- ・もっとたくさん知りたい
- ・多種のレクリエーション技術
- ・新ネタがほしかった
- ・遊びのやり方が知っている動作が多かったので、全く知らない遊びもあれば良かったと思う
- ・実践ゲームの内容、自己向上心（自己啓発）

***大集団の展開法**

- ・大勢の子どもたちを楽しい気持ちのまま一定時間静かにする方法
- ・大団体の子どもと遊べる遊び

***自信を持ってない**

- ・今後の活動への活かし方が十分に理解できない
- ・概略は理解できたが自身がやることになると難しい
- ・自分自身への指導力向上

***その他**

- ・子育てボランティアということで勘違いをしていました。幼少期と思い、子育て支援の勉強会とっていました
- ・市内各施設における具体的な取り組み（実践的）を知りたかった
- ・子どもの内面等（関わり方、現場での様々なケースにあった対応等）
- ・対象になる子どもたちによってどのような進め方が適当か
- ・高校生には通用しないかと思った
- ・援助の仕方
- ・救急医療についてはもう少し時間がほしかった

③もう少し、深くまたは新たに学習したい内容がある場合には、簡潔にご記入下さい（以下、抜粋）。

***コミュニケーションツールとなる遊び、ゲーム等のアクティビティの展開**

- ・アイスブレイクの遊びの種類
- ・グループ分けの方法、グループでの遊び方
- ・しゃべり方や動作など…実際接する上での注意点など
- ・集まる人たちの状況、状態によってのアイスブレイクの方法
- ・校庭やグラウンドで遊べるゲーム
- ・成長に欠かせないたくさん遊び方について学びたい
- ・体を動かす軽い運動
- ・フロー理論の不安、つまらないの線引きがなるほどと思った
- ・ホスピタリティ
- ・レクリエーションの技術や技法を学びたい、子どもたちに提供できる遊び
- ・一度ではなかなか理解し難いため、同じようなテーマでくり返し、講習を受けたい

***放課後子ども教室での活動**

- ・ボランティアの考え方、他のゲームなど
- ・活動のコツ・ポイント
- ・具体的な日頃の活動内容など
- ・具体的に見学し、説明を受けたい
- ・他校区とのコミュニケーション（現場見学等）

***子どもたちの理解（より専門的に）**

- ・子どもたちとの深い部分での関わり方を今後学習したい
- ・子どもの心理学
- ・現代の子ども心理学等
- ・子どもが話しに集中できるコツがあれば

***具体的な場面、対象への対応**

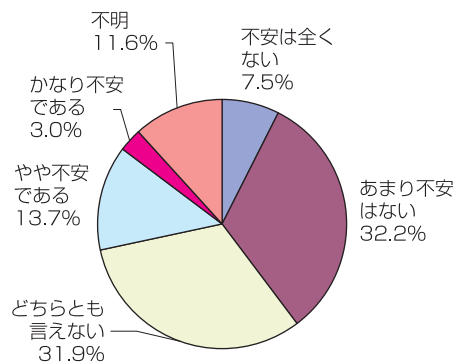
- ・問題のある子どもへの対処法
- ・遊びに参加しない子どもへの対応
- ・他学年、異年齢を一つにした時の進め方
- ・参加をしづる人（子）への提供プログラムや方法
- ・トラブル発生時の対応等

***その他**

- ・効果的な取り組みの実践、“失敗談”から学ぶ物
- ・行動方針を共有するため講習会等があれば積極的に参加したい
- ・歳と共に機敏さがなくなってきたので、これからも学習したい

④本講習会終了後、実際の放課後子ども教室（あそびの城等）の現場でボランティアとして活動するにあたり、今後の見通しについて、あてはまるものに○印をご記入下さい。

(25) 不安は全くない (108) あまり不安はない (107) どちらとも言えない (46) やや不安である (10) かなり不安である



◆上記回答の理由（以下、抜粋）

①不安は全くない

- ・安全面で若干不安有り
- ・楽しみながら皆と取り組めばよい
- ・子どもと接することが好き、孫との気分
- ・児童と接するときに不安は感じないので

②あまり不安はない

- ・コミュニケーション作りのきっかけができたから
- ・子どもたちともある程度会話・交流ができるようになったから
- ・実習で体験し自信にも少しなりました
- ・できるだけ自分の行動を振り返って、自信の持てない点は仲間と意見交換したり勉強したり、講習会を探して学ばせていただいて、新しい情報を得たり情勢を知るよう心がけております
- ・行政スタッフ、子ども教室スタッフのよい関係が現在は保たれているため
- ・仲間がいるので
- ・子どもが自由に遊ぶのを見守ればよいと基本的に思っている。仲間はすれになっている子の相手になれるとおもうようになった（今までよりは）
- ・子どもとの交流の仕方等、より情報を得ることができたとし、頂いた〈遊びボランティアのすすめ〉がとても役立ちそうだから
- ・子どもの心に寄り添い、楽しく活動していきたい
- ・問題点はあるが楽しみや喜びもついてくるので

③どちらとも言えない

- ・まだまだ勉強しなくてはならないと思う
- ・まだ一回目なので学習が未熟である

- ・実践の場が少なく、時間もまだ取れないため
- ・実力不足のため
- ・一人では不安だがみんなとなら可
- ・一人一人の個性が違うから難しい
- ・何が起るかわからないため、その時々で考える知識が備わっているかどうか不安
- ・子どもたちの気持ちを充分理解できないため
- ・自分自身もまだ勉強中であるため。（日々の中で）
- ・継続できるか否か…事故が心配。けが・トラブル

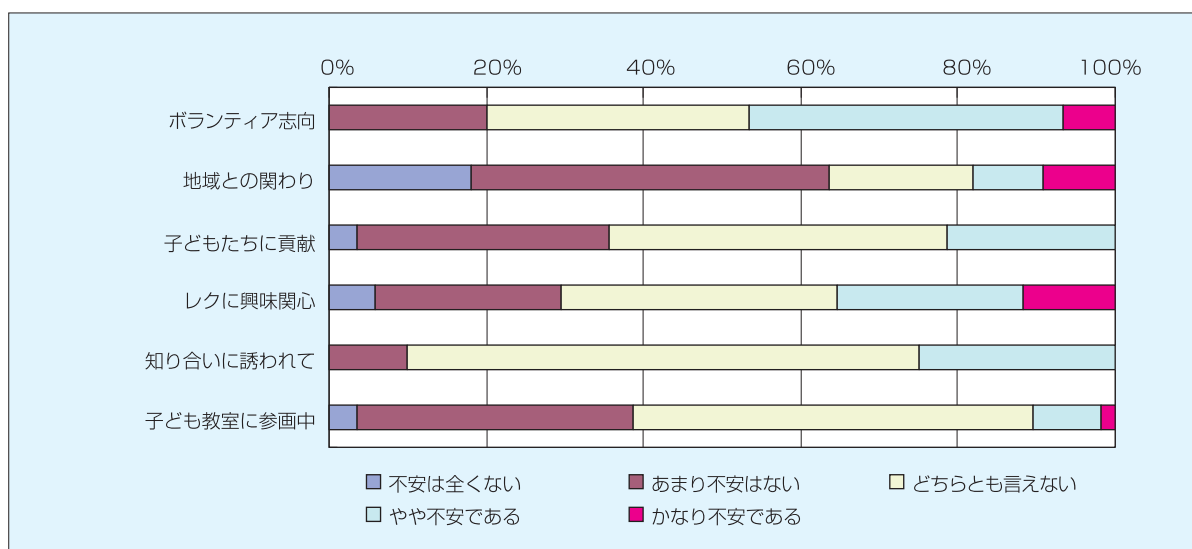
④やや不安である

- ・まだ一度も活動したことがないので
- ・何にしても初めてなので
- ・場を沢山踏んでいないので
- ・経験不足と体力不足
- ・子どもたちのありのままの姿を私自身が受け入れることができるのか？
- ・子どもにけがをさせないか、またしないか
- ・集団をまとめることの不安がややある
- ・上手く説明できるかわからないから
- ・継続してできるのか。平日は学校だから
- ・身分の安定

⑤かなり不安である

- ・とまどいがあります
- ・何の活動を提供できるのか不安
- ・初めての講習だったので、現場を見学してみたいと思いました

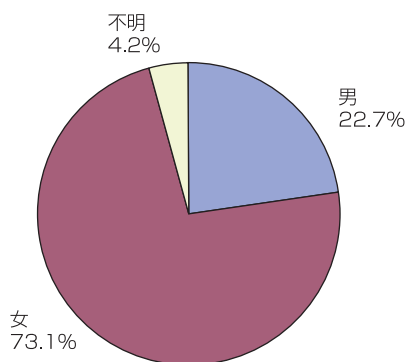
◆受講の動機と今後の見通し



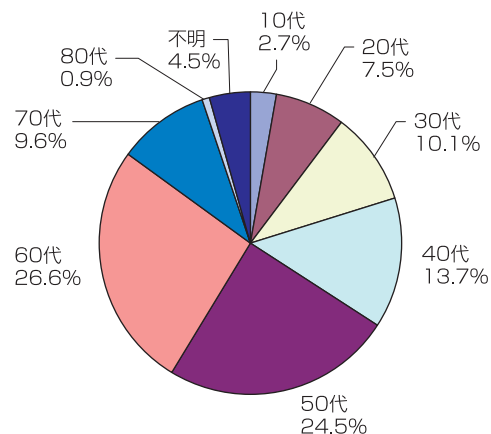
Q4. あなた自身についてお聞きます。

- ①氏名 :
 ②性別 : 男 (76) / 女 (245)
 ③年齢 : 10代 (9) / 20代 (25) / 30代 (34) / 40代 (46) / 50代 (82) / 60代 (89) / 70代 (32) / 80代 (3)
 ④職業 : 会社員 (10) / 自営業 (7) / 小学校教員 (3) / 幼稚園教員 (1) / 児童館職員 (19) / 保育士 (4) / 放課後子ども教室指導員・ボランティア (37) / 児童福祉施設等職員 (5) / 高齢者福祉施設等職員 (9) / 社会福祉協議会職員 (4) / 学生 (17) / パート・アルバイト (20) / 主婦 (91) / 無職 (43) / その他・不明 (65)

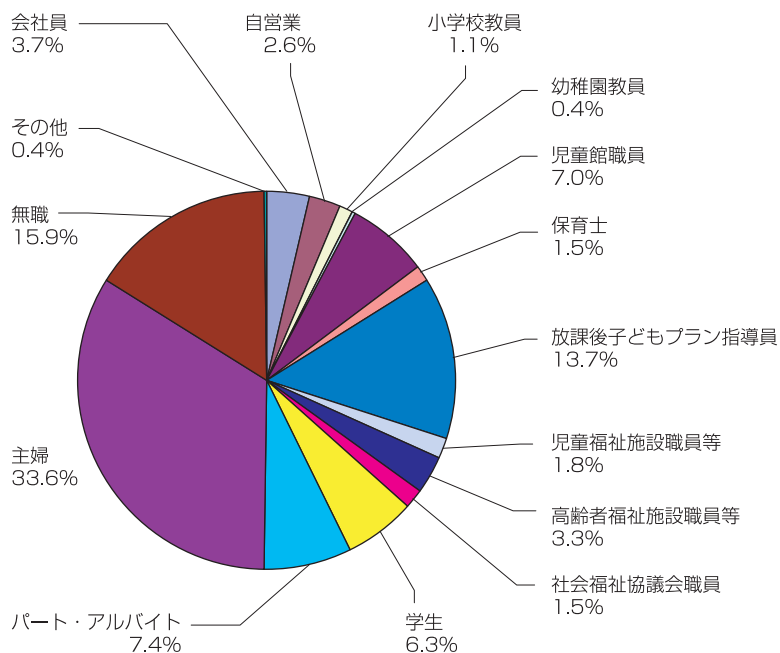
<氏名>



<性別>



<職業>



[2] ボランティア勉強会受講者アンケート

(1) アンケート実施概要

各モデル地区のボランティア養成講習会及び現場体験後に実施する勉強会の受講者に対し、勉強会終了時にアンケートを配布し、その場で回収。

■有効回答数：144（13モデル地区）

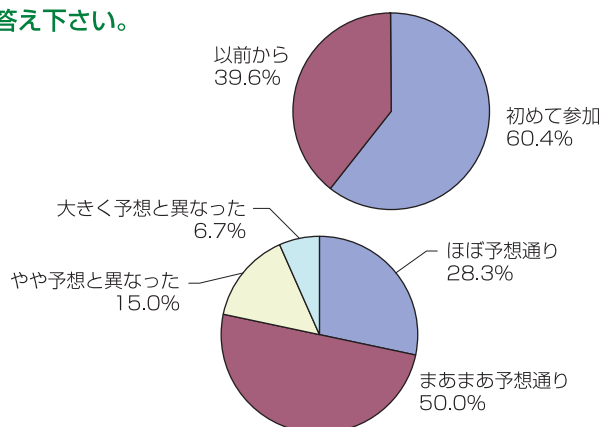
(2) 集計結果

Q1. 放課後子ども教室のボランティア（スタッフ）として活動するのは、今回ははじめてですか？ はじめての場合には、その後の間にもお答え下さい。

- (87) はじめて活動（参加）した
- (57) 以前から活動している

－1： はじめての場合、子どもたちの様子は、
実施する前の予想と比べていかがでしたか？

- (17) ほぼ予想と同じ
- (30) まあまあ予想と同じ
- (9) やや予想と異なった
- (4) 大きく予想と異なった



－2： はじめての場合、放課後子ども教室で活動した率直な感想を簡潔にご記入下さい（以下、抜粋）

*楽しさ

- ・楽しかった。また来たいと思う
- ・子どもたちとふれあえることが楽しかった
- ・とても楽しかった
- ・私自身も楽しみながら勉強をしました
- ・遊びを通じて一体感を持つ楽しさを味わいました。たくさん思いやりをいただき、子どもに戻って楽しませてもらいました

*子どもに対する感想

- ・子どもは素直でかわいいと思った
- ・子どもたちの元気さにパワーをもらえた
- ・子どもたちはレクリエーションの道具の持ち込みで、大変喜んでいきいきしていました
- ・子どもたちは先生の言うことをよく聞く
- ・礼儀正しい
- ・みんなとてもしっかりとしたことを考えていてすごいと思った

*やりがい、大切さ

- ・子どもに遊びを提供する大切さ
- ・今の子どもたちの体力が低下しているため、このような事業が大事なんだと思いました
- ・予想していた以上に人数が多かったので、うれしい限り、やりがいがありました

- ・子育てを終え、子どもたちの成長の過程から遠ざかっていましたが、久しぶりに親子でのふれあいの時間に関わることができ、また、この時期の大切さを感じました

*難しさ

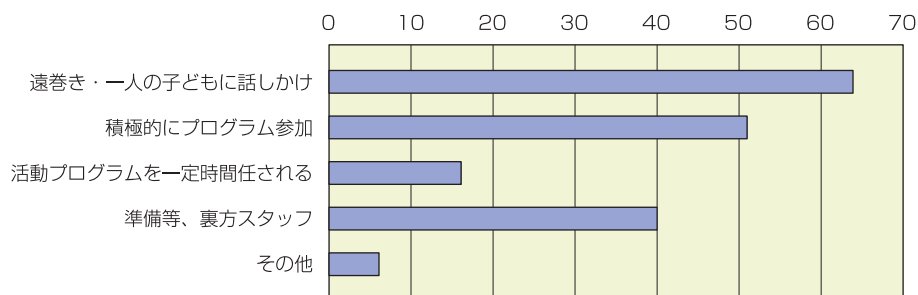
- ・子どもたちとコミュニケーションをとるのが難しい
- ・子どもたちが元気で、積極的なことには驚かされる。先生がいるので規律が守られるが、難しい場合もある。ゲームでうまくいく場合は良いが、できない子、少しおとなしい子とのフォローに気を遣う
- ・大変でした
- ・ついていけなかった。全くの素人だったので、ぜんぜんついていけなかった
- ・年齢差のある子どもたちを、いかに楽しく飽きずに遊ばせるプログラム作りができるか、難しいと思いました

*その他

- ・参加者はほぼ初対面で、気を遣い合うところもあるけど、逆に新鮮な感じで、良い意味の緊張感を味わえました
- ・プログラムは仲間と作ると良いなど、色々な気づきがあって良かった
- ・初めて参加させていただきましたが、皆さんの普段からの関わりと、企画力・指導力等、とても参考にさせていただきました

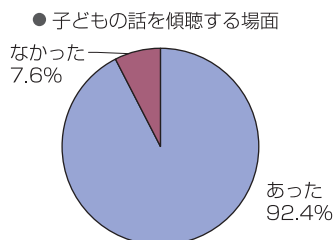
Q2. どんな役割で放課後子ども教室に関わりましたか。 該当するもの全てに○印をご記入下さい。

- (64) 子どもの見守りボランティアとして、遠巻きに見守ったり、1人の子に話しかけるなどの関わり
 (51) 積極的にプログラムに参加し、子どもたちに話しかけたり、一緒に活動に参加
 (16) 活動プログラムを一定時間任され、場を運営
 (40) 準備、片付けなどの裏方スタッフとして参加
 (6) その他

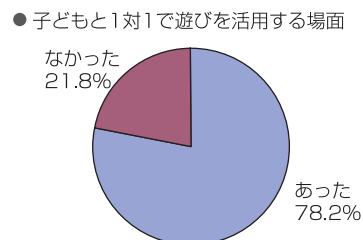


Q3. ボランティア養成講習会で学習した内容を活かす場面はありましたか。あった場合には、 学習した成果をどの程度活かすことができたか、お答え下さい。

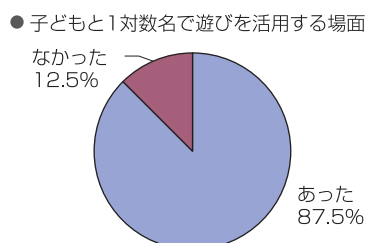
- ①子どもの話を傾聴する場面
 (109) あった (9) なかった



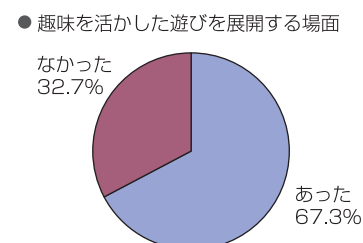
- ②子どもと1対1で遊びを活用する場面
 (86) あった (24) なかった



- ③子どもと1対数名で遊びを活用する場面
 (98) あった (14) なかった

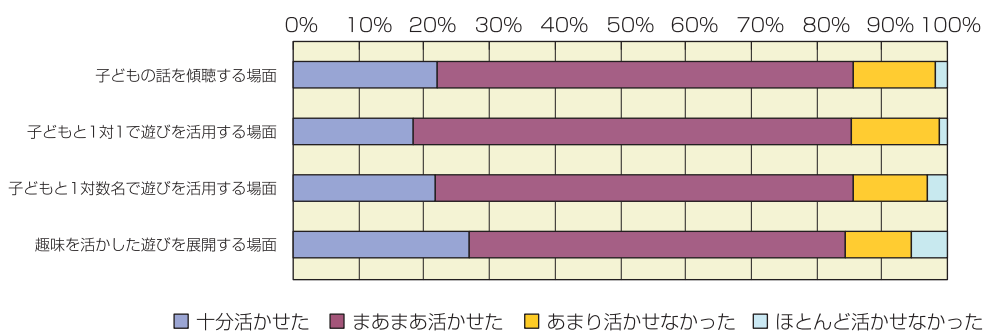


- ④趣味を活かした遊びを展開する場面
 (72) あった (35) なかった



―活かす場面があった場合、どの程度活かすことができたか

設問	十分活かせた	まあまあ活かせた	あまり活かせなかった	ほとんど活かせなかった
①子どもの話を傾聴する場面	23	67	13	2
②子どもと1対1で遊びを活用する場面	15	55	11	1
③子どもと1対数名で遊びを活用する場面	21	62	11	3
④趣味を活かした遊びを展開する場面	19	41	7	4



Q4. 子どもたちとのコミュニケーションを図る（接する）上で、難しいと感じたことがあれば、簡潔に教えて下さい。（以下、抜粋）

*声かけ

- ・朝から調子が出ない子どもに無理に声をかけすぎて、最後までうつむいたまんまだった。放っておくことも見守りということを学んでいたの、活かしていきたいと思った。
- ・今の子どもたちは他人と接触することが苦手なんだということがわかった。言葉かけが難しい。
- ・おとなしく、ものを言わない子どもへの接し方

*注目させること

- ・集めることや話を聞いてもらうこと
- ・興味がある事柄には飛びつくが、そうでないものには知らんぷりされる
- ・子どもたちを引きつける話術
- ・私語が多くなかなか言うことを聞いてくれない

*具体的な場面、子どもたちの特徴

- ・いきなり「問題をかかえて反抗する子ども」を任されること。人間関係を作っていかなければ、対応が難しいのは当たり前です。そういう子にどうしてゆくか指針を示していただきたい
- ・男児の場合、運動量が多いので、ついていくことがだんだん辛くなってきたが、気持ちだけは一緒に遊んでいるつもりです
- ・小学校高学年以上になると、子どもというより少し大人びた面があり、少し難しいと思います

*信頼感を得るまで

- ・打ち解けるまで時間がかかる

- ・その子のことをきちんと知っている上でコミュニケーションを取りたいなぁと思うのですが、やっぱり初めて会った子どもには何を話したらいいのか、内容に困りました

*子どもの理解

- ・子どもたちの気持ちを理解するのが難しいところがある
- ・ひとりひとり性格や体力等色んな面で違うので、短い時間でつかむことが難しい
- ・子どもの性格が十分把握できていなくて、指導面に戸惑いがあった
- ・自分の子どもたちと時代と、孫のような子どもたちとの違い。テレビ社会の中で育った子の頭の発達の良さに驚かされています。
- ・自分が子どもの頃の様子と、今の子どもたちの様子の違いを感じたこと

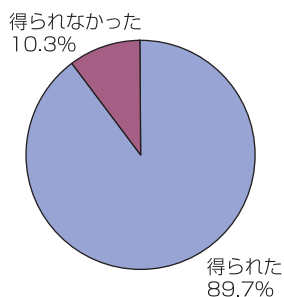
*その他

- ・様々な子どもたちの中で偏らずに接すること
- ・自分の判断の方にともすれば押しつけようとする場面が多かった。子どもの気持ちを本当に分かってやることの難しさを感じた
- ・子どもたちの性格や機嫌のよしあしによって、毎回違うところが大変です
- ・積極的な子どもは良いが、人見知りする子、引っ込み思案の子どもとの会話、失敗しても楽しかったと思わせるコツが難しい

Q5. 勉強会では、現場体験を通して子どもたちと接する際に必要だと感じた技術（コツ）や情報を得ることができましたか。得られた場合には、その内容を簡潔にご記入下さい。

(96) 得られた

(11) 得られなかった



—得られた内容

*アクティビティ、プログラムの展開方法

- ・アイスブレイクの持っていく方
- ・遊びの展開の仕方が理解できた
- ・子どもが食いついてくるゲームに感心しました
- ・体を使ってレクゲームをする。家の中にある品を使っ

て遊ぶ

- ・簡単なことから難しいことへと、いくつかの段階に分けて展開していくこと
- ・子どもとの接し方、遊び方
- ・講習会でもあった、感動表現を豊かに、適度なスキンシップを持つてのほめ言葉の声かけ
- ・小さなことでもほめる
- ・子どもの興味を引く動機付け、言葉かけなど、ゲームなどを通して、楽しく体験させてもらいました
- ・コミュニケーションをとるにあたって、導入部の大切さ、体を動かすこと、音楽（リズム）がいること、など
- ・子どもたちが楽しいと思うことを考えることを、最初に興味をわかすということです
- ・将来、小学校の教師になりたいので、そのコツを学んだ気がする
- ・必死で子どもと一体（一心）になる（心から）、あとは声かけの仕方など
- ・前に立って話す時の導入部分。つかみのところ。いか

に子どもの注意を引きつけるのか、すごく難しいし、今実際にしてみると言われると自信はまだないですが、「これ話してみたい」「やってみたい」と思えること（ネタ?）が増えました

*ほめる、目線を合わせる

- ・物事に対して目を向けさせる。おだててというか、自信を持たせることかな。
- ・自分も楽しむこと、子どもの目線に合わせて話をする
- ・子どもと同じ目線に立ってあげることが大切だと思った
- ・笑顔で親しみが持てる雰囲気作り。目線を低くする。うまくいった時はほめる。喜ばせるし、自分も一緒に喜んで共有する。楽しんで、また一緒にしたいと思わせる。

・一生懸命遊びに取り組んでもうまくいかない、そんなとき大いに勇気づけ拍手を送ってあげる。子どもの得た笑顔は忘れられない。

*その他

- ・どの子ども皆、興味を持って参加してくれて、こちらからも笑顔で参加できた
- ・大勢の子どもたちに対する、はじめの関わり方（声かけ）等の難しさ
- ・スタッフ間での役割分担や子どもたちのフォローについて
- ・しつけは大人が身をもって示す。怒鳴ってばかりはいけない

Q6. あなたが放課後子ども教室で活動を続けていくためには何が必要だと思いますか。必要だと思われるもの全てに○印をご記入下さい。

*アクティビティ

- ・新しい遊びやコツ
- ・レクリエーション種目、特にスポーツ
- ・色々な遊び
- ・大勢でするゲームではなしに、個人的な皿回し、けん玉、コマ回し等、子どもたちにせがまされると、上手にできない。もっと練習しないといけないと思いました。
- ・ゲームなどをもっとたくさん知りたい
- ・現場で即実践できるようにメニューづくりの方法を知りたい
- ・子どもたちが夢中になって挑戦できて喜んでくれるメニューがほしい
- ・様々な遊びを身につけたい
- ・狭い教室でできる遊び色々
- ・マジック

*コミュニケーションノウハウ

- ・今の子どもたちとの接し方
- ・多くの子ども相手にもひとつにまとめること
- ・子どもとの接し方、話し方など
- ・子どもにこちらを振り向かせるコツ
- ・子どもの話を傾聴する方法（コツ）
- ・テンポ・話術で引き込まれる技術を勉強していきたい

*勉強会への期待

- ・次は実際に子どもたちにまざって色々経験したいと思

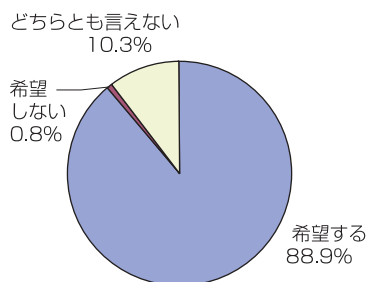
います

- ・たくさんの人の意見を聞くことで勉強になるので、色々な方と勉強会に参加したいです
- ・年に数度勉強会に参加して、色々覚えたい
- ・時間がもっとあれば、もっと深く知りたい
- ・現場でどうしているかを見たい

*その他

- ・年配の方々の知恵を借りる
- ・母親の気持ちなど
- ・ボランティア同士が上手くやれるコツ
- ・やることに関して、緊張するし、どうしよう？とパニックになりますが、前に出る回数をたくさん増やして、自分から話せるようになりたいです。なので、前に出て話すコツをもっと知りたいです
- ・技術だけでは子どもはついてこない。一緒に楽しむ気持ちやその気にさせる言葉かけなどの、場作りに必要なものを育てる場を作る必要性を感じた。
- ・安全管理
- ・子ども教室（学習）の先生たちに、子どものおさめ方（集団をまとめる、けんかの対応等）を教えてあげてほしい。ベテランばかりではないので
- ・最近の子どもの考え方
- ・失敗談
- ・嫌な思いをせず続けられる方法

Q7. 今後も放課後子ども教室で役立つ情報を得たり、ボランティア同士の交流の場となる今回のような勉強会の開催を希望しますか。また、その理由につきまして、簡潔にご記入下さい。



(112) 希望する

一理由

- ・新しい情報や知り合いと出会いたいのでお願いします
- ・他の教室の内容を聞き、良いところはまねる
- ・詳しく学びたい
- ・より深く勉強したい
- ・ゲーム類をもっと習得したい
- ・現在の子どもの状況やたくさんの遊びの仕方など勉強

になる

- ・個人ではどのように勉強していいかわからないから
- ・子どもたちとふれあう機会を作りたい
- ・子どもの扱い方とか、ゲーム等の場合は大人向けにも勉強して役立たせたい
- ・コミュニケーションの取り方等
- ・さらに技術を磨きたい
- ・情報交換等で活動に生かせると思うため
- ・情報交換や振り返りができる（自分の活動）
- ・将来に役立てたい
- ・少しでも誰かのためになればと思って
- ・その時々合った新たな疑問に対処できるように
- ・たくさん遊びの知識を知りたい
- ・楽しいから
- ・今回もすごく楽しかったので、また参加したいと思うから

- ・勉強会への参加を重ねながら少しずつ慣れていきたい
- ・もっといっぱい勉強して自分も参加してみたい
- ・もっともっと自信をつけたい
- ・市の活動の役に立つと思う
- ・自分にも孫がいるので一緒に遊べるし、町内の行事の時など子ども会の人たちと一緒にいる時もあるので、色々勉強になると思う

(1) 希望しない

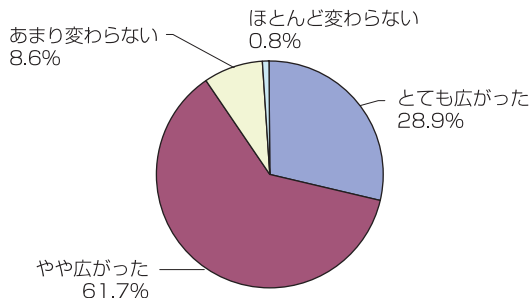
(13) どちらとも言えない

ー理由

- ・交流での意見交換や勉強会は必要かと思うが、集まれるかわからないので
- ・時間的に難しい
- ・必要とされる方が利用できるのは良いと思う

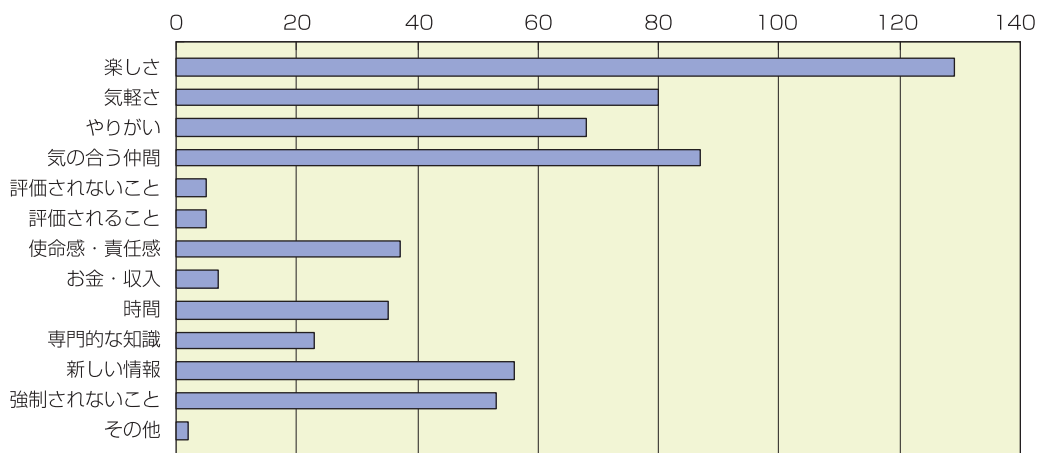
Q8. ボランティア講習会、現場デビュー、勉強会を通し、地域の方との交流など、人間関係が広がりましたか。

- (37) とても広がった
- (79) やや広がった
- (11) あまり変わらない
- (1) ほとんど変わらない



Q9. あなたが放課後子ども教室で活動を続けていくためには何が必要だと思いますか。必要だと思われるもの全てに○印をご記入下さい。

- (129) 楽しさ (80) 気軽さ・できる時に関わること (68) やりがい (87) 気の合う仲間
- (5) 評価されないこと (5) 評価されること (37) 使命感・責任感 (7) お金・収入 (35) 時間
- (23) 専門的な知識技術 (56) 新しい情報等を入手すること(学ぶこと) (53) 強制されないこと (2) 他



Q 10. 主催者としては、放課後子ども教室により多くの地域住民に関わっていただきたいという願いがありますが、どうすればより多くの地域住民の参画を促すことができると思いますか。思いつくものを簡潔にご記入下さい。

* 媒体の活用

- ・ ありきたりですが、目につく場所（コンビニなど）のポスター、インターネット（ホームページ）等
- ・ チラシやパンフを2～3日前に地域の家庭に配布する。子どもにチラシやパンフを持って帰り、両親に頼んでもらう
- ・ もっと宣伝する。チラシとか。
- ・ できるだけ多くの住民が知る機会があること、広報とか学校等で知らせる

* 機会づくり

- ・ イベントを多く様々な地域で行うことでしょうか
- ・ 多くの人に参加してもらい。季節の行事などを取り入れてみたら（例えば、だんごさし、門松作りなど）
- ・ 教室の活動の内容を知っていただく機会を作る
- ・ 今日のように、夢中になる自分を楽しむ体験をやってみて理解してもらうのも活動の一つ、協力をもらえる早道でもあると思った。常に心がけて、ちょっとした集まりの時間にゲームや折り紙など紹介したい
- ・ 公の場での広報やアピール
- ・ 地域の人が集まる場所での企画等をする
- ・ 時には親子で参加できる行事を計画する（日曜とか夜とか）。例：合同レクリエーション、星の観察、発表会等。

* ノウハウの確立、運営方法

- ・ 色々遊び方の知識等をもっと集めたいと思う
- ・ 実習的な交流会
- ・ 時間をもう少し、昼間と夜との2部に分けてもらえるとういかも

* 関係機関、団体との協力・連携

- ・ 色々な自治体に呼びかける
- ・ 学区単位のPTA・子ども会との連絡が取れること。児童館・公民館・老人憩いの家・社会福祉協議会との関わりを持てること
- ・ やはり参加団体に極力声をかけ、講習会、勉強会等を重ねていくしかないのでしょうか

* 学校との協力

- ・ 学校側からの地域への呼びかけや、親睦を図る会など
- ・ 子どもと先生との場が多く、親との交流が少ない。休日は両親はのんびりしたいと思っているのかもしれない。学校のイベントで授業参観の時にPRできれば良いが
- ・ 小学校のPTAの会議などに参加させてもらってアピールする

* 口コミ

- ・ 教師や保育士等にも参加してもらい、口コミのネットワークを使う
- ・ 口コミ
- ・ 経験者からの気軽なお誘いから徐々に関わっていくこと
- ・ 声かけ、活動を知ってもらうこと

* その他

- ・ 多くの実践の情報
- ・ まず、一回足を運んでもらうこと
- ・ ボランティア募集を常時告知したり、活動を報告した方が良いと思う
- ・ 宣伝、子どもたちが楽しかった・また遊びに来たいという魅力あるものを提供して自分も一緒になって楽しむ
- ・ 地域の方に放課後子ども教室の内容を理解していただく。知らない人も多いのではないかと思います
- ・ 手軽にその場でも参加できる場所で開催したり…参加した人皆が楽しかったので今のままでも
- ・ 隣近所の人と顔見知りになる
- ・ 放課後子ども教室を理解していただく上でも、地域の事業等に参加して声かけをする

【3】モデル地区アンケート結果から

～事業運営委員会による事業評価を踏まえて～

(1) 成果

1. ボランティア講習会の学習内容については高く評価

ボランティア養成講習会及び、勉強会終了後のアンケート結果を見る限り、ボランティアとしてはじめの一步を踏み出す講習会の学習内容及び、はじめての現場体験を通して感じた技術的な疑問や相談に応える（スキルアップを図る）勉強会の学習内容については、高い成果をあげたものと思われま

す。例えば、受講者が講習会受講前に期待していたものについて、「かなり得られた（46%）」「やや得られた（40.6%）」との回答が86.6%（P11 Q3 ②回答参照）、勉強会では89.7%の受講者が「得られた」と回答（P17 Q5 回答参照）している結果からもわかります。

ボランティア講習会で学習する内容は、子どもたちと接する際、最低限必要な知識やスキルを提供する内容となっていますが、学習した内容を活かす場面があったかという設問に対し、4つの場面それぞれ70～90%の割合でそうした場面があったと回答しております。さらに、どの程度学習成果を活かすことができたかという設問には、それぞれ約85%程度を受講者が「十分活かせた」または「まあまあ活かせた」と回答しており、このことから学習内容の妥当性、有効性が見て取れます（P16. Q3 回答参照）。

なお、今後も継続的な勉強会の開催を希望する人が88.9%もいる（P18 Q7 回答参照）ことから、学習内容について高い評価を得たものと推測できます。



2. プログラム提供型の居場所の効果

子どもの居場所には様々なタイプがあり、どれが良い悪いということはありませんが、今回想定した子どもの居場所は、大人がある程度のアクティビティ・プログラムを用意した居場所を想定して実施しました。もちろん、全てのボランティアが積極的に子どもたちに遊びを提供するというのではなく、見守り・寄り添いながら、一人でいる子どもに声をかけたり、1対1で指遊びなどを楽しんだりという関わりを含んでいます。

今回初めて放課後子ども教室の現場体験をした受講者からは、「楽しかった」という声や、子どもたちと関わった喜び、やりがいなどの感想を多数いただきました。子どもたちの感想（文部科学省アンケート結果）を見ても、約94%の子どもたちが「とても楽しかった」「楽しかった」と回答しており、多くの大人が関わり、1対1、1対数名でちょっとした遊びを提供することで、子どもたちにとっても楽しい場となることがわかります。

子どもたちの笑顔がボランティアのエネルギーの源であることが言うまでもありませんが、ボランティア自身ができる範囲で子どもたちと主体的に関わり、そのことで子どもたちの笑顔が生まれる。そして、もっと子どもたちの笑顔が見たくてスキルアップを図る。そのことでさらにたくさんの笑顔が生まれるというプラスの循環が生まれていきます。また、受講者が活動を続けていくために必要なこととして、第1位に「楽しさ」を上げています（P19. Q9 回答参照）。

子どもが喜ぶ遊びを提供することで楽しさが生まれ循環する。プログラム提供型の居場所故の効果と言えるのではないのでしょうか。



3. 勉強会によるネットワークづくりの効果

先に触れたとおり、今回勉強会までを受講した人の88.9%の人が、今後も継続的な勉強会の開催を希望しています。本事業では、『ボランティア講習会－現場での体験－勉強会』の一連の取り組みを自主的なネットワークづくりの仕組みと捉えて実施しましたが、受講者のアンケート結果を見る限り、勉強会の継続展開を図ることで、自主的なネットワークづくりが実現していくものと思われれます。

勉強会の参加者の中には、現場体験を行った受講生から誘われてきた既存のボランティアもいるなど、ネットワークの広がりも期待されます。また、本事業に関わることで、地域の間関係が「とても広がった」または「やや広がった」という人が約90%いました。

もう少し学習したい内容には、これまでの学習をより深めたり、様々なアクティビティの体験などを上げる声が多数ありました。勉強会がボランティアの居場所となり、地域の方との交流の場と機能していく方向も見えてきました。

4. 新たなボランティアの学習だけでなく、さらなる一步の学習としても機能

本事業は、はじめて放課後子ども教室のボランティア活動に関わろうとする方を主対象として実施しましたが、すでに活動している方の参加も約4割程度ありました。既存の指導員、またはボランティアにとって、現場体験の意味はあまりないように思われますが、ボランティア講座で学習した内容を活かす初めての機会としての意味は大きいようです。アンケート結果からも、既存の指導員・ボランティアが現場体験で学習した成果を活かしたかという設問については、85～95%の方が「十分活かせた」または「まあまあ活かせた」と回答していることからわかります。

既存の指導員・ボランティアのスキルアップにも、本モデル事業の成果の活用が期待されます。

(2) 課題

1. 受講者の募集

各モデル地区共通の課題としては、受講者の確保（募集）があげられます。募集にあたっては、ポスター・チラシを作成すると共に、各モデル地区それぞれの方法で受講者の確保を行いました。最も成果を上げたのが知り合いからの口コミでした（P9. Q1 回答参照）。

講習内容は評価されても、受講してもらえなければ何も始まりません。モデル地区の中にはNPO組織が単体で募集を行っているところもありました。募集にあたっては、市町村内各放課後子ども教室及び自治体と連携を図りながら進める必要がありそうです。ただし、本事業が放課後子どもプランの中で展開されていく場合には、その心配はないでしょう。

なお、「受講の動機と、ボランティアとして活動していく今後の見通し（P13. 下図参照）」では、「地域との関わりを持ちたい」という動機で受講された人が、他の動機で受講した人に比べ、「不安はまったくない」または「あまり不安はない」と回答している割合が高くなっているところにも、今後注目していく必要がありそうです。

2. 関係機関、各放課後子ども教室との連携

16のモデル地区の中には、市内各放課後子ども教室と十分な事前の調整を行いながら展開できなかった地域もありました。その結果、現場体験など、学習した内容を活かす場所の調整が遅れてしまうなど、受講者に迷惑をかけてしまうこともありました。

自主的な勉強会、自主的なネットワークづくりを進めるモデル事業として展開してきましたが、市町村内における各放課後子ども教室の情報については、主催者側で整理し、受講者に伝える必要があります。ネットワークを独り立ちさせるためには、やはり事務局機能が重要になりそうです。

参 考

■ 事業運営委員（敬称略）

石井山 竜平	東北大学大学院教育学研究科准教授	※委員会座長
岡 尚志	山梨県ボランティア協会常務理事	
猿渡 智衛	横浜市小学校教諭・弘前大学大学院生	
塩沢 一夫	山梨県立都留児童相談所	
猿田 重昭	千葉県レクリエーション協会常務理事	

■ モデル地区

青森県青森市	（あそびの城泉川あそび子どもクラブ）
福島県伊達市	（伊達市レクリエーション協会）
茨城県守谷市	（茨城県レクリエーション協会）
千葉県四街道市	（四街道市レクリエーション協会）
新潟県長岡市	（希望が丘コミュニティ推進協議会）
石川県金沢市	（石川県レクリエーション協会あそびの城づくり実行委員会）
山梨県甲斐市	（山梨県レクリエーション協会）
静岡県富士宮市	（富士宮市レクリエーション協会）
静岡県浜松市	（浜松市社会福祉協議会）
兵庫県高砂市	（高砂市レクリエーション協会）
広島県広島市	（広島県余暇プランナー協会）
徳島県松茂町	（徳島県レクリエーション協会）
福岡県那珂川町	（博多南遊 you 会）
佐賀県佐賀市	（佐賀県レクリエーション協会）
佐賀県武雄市	（武雄市レクリエーション協会）
大分県大分市	（森町「あそびの城」運営委員会）

特定公益増進法人

財団法人 日本レクリエーション協会

〒101-0061

東京都千代田区三崎町 2-20-7 水道橋西口会館 6F

TEL:03-3265-1244 FAX:03-3265-1253

URL <http://www.recreation.or.jp>

E-MAIL soshiki@recreation.or.jp